

サイ・テック 知と技の発信

[328]

埼玉大学・理工学研究の現場

■警察介入の問題が増加
 一〇数年の間に、IT(情報技術)関連の記事が、新聞やニューズなどの話題になることが多くなっています。特に、ビットコインなどのフィンテック関連の話題が新聞の紙面に掲載されることが多くなっています。フィンテックとは、コンピュータに外部からワイ



は、Finance(金融)とITech(Information Technology)を合わせた言葉で、金融にIT技術を導入することを指します。ビットコインなどは、IT技術によって作られた新しい通貨と言えてでしょう。

よじらのりあき 1968年生。97年3月東京工業大学大学院博士課程単位取得退学修了。博士(学術)。東京工業大学助手、群馬大学助教授を経て、06年6月から現職。専門はソフトウェア工学、コンピュータネットワークとその運用技術。

サイバー犯罪と英語

吉浦紀晃 准教授

スを仕込まれて、コンピュータの挙動がおかしくなるといった問題。つまり、サイバー・セキュリティの問題は、昔からありましたが、ITの中の問題と見なされてきました。

しかし、サイバー空間上で、金銭のやり取りが行われるようになると、徐々にサイバー犯罪、つまり、警察が介入する問題が増えてきました。インターネット上のオンラインショッピング、オンラインバンキング、そして、ビットコインなどの通貨などが出現するにつれ、サイバー犯罪が増加してきています。サイバー・セキュリティとサイバー犯罪は違うものなのです。

サイバー犯罪の情報量と、英語による情報提供ウェブ・サイトは非常に少ないですが、海外では、サイバー・セキュリティとサイバー犯罪は区別され、多くのウェブ・サイトで提供されています。

■英語の理解力で格差
 当然ですが、サイバー犯罪の話題は、ウェブによる情報提供されています。実は、日本語によるサイバー犯罪の情報量と、英語による情報提供ウェブ・サイトは非常に少ないです。

■日本語は特殊
 今では、グーグルなどが翻訳サービスを提供していますが、翻訳された日本語がちゃんとした日本語であるかは保証の限りではありません。実は、英語から中国語やハンガールなどの他の言語への翻訳結果は、日本語への翻訳結果よりもよい場合が多いのです。

また、海外のサイバー犯罪捜査は活発です。FBIのサイバー犯罪に関する情報提供は平均的です。サイバー犯罪対策には英語が必要なのです。

埼玉経済

企業、団体、商店街などの話題や情報をお寄せください
 TEL 048・7995・9161 FAX 048・653
 keizai@saitama-np.co.jp